

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																			
東京ビューティーアート専門 門学校		平成11年12月10日		中村 秀行		〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-8 (電話) 03-5805-1251																																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																			
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		屋間 一彦		〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																																			
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																																		
衛生	衛生専門課程		美容科			平成6年文部省 告示第84号	-																																		
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、美容の関連分野において、活躍する人材を育成する為、必要とされる知識と技能を教授することを目的とする。																																								
認定年月日	平成 28年 2月19日																																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																		
2年	昼間	67	18	8	41	0	0																																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																			
200人		164人	4人	54人	25人	79人																																			
学期制度	2期制(前期4-9月・後期10-3月)			成績評価	<b>成績表:</b> <b>有</b> <b>成績評価の基準・方法</b> <small>学期評定・学年評定共に5点法とする。単位認定は下記事項に該当する者について校長(副校長)が行う。  1) 学年評定「2」以上  2) 指定時間数を満たしている場合</small>																																				
長期休み	夏期休業	7月26日から8月31日まで		卒業・進級 条件	教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について平素の成績及び品行をもとに判断している。																																				
学修支援等	<b>クラス担任制:</b> <b>有</b> <b>個別相談・指導等の対応</b> 本人及び保護者との電話連絡と三者面談等を実施し、常に状況の確認を行う。またカウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員で相談等サポートを			課外活動	<b>課外活動の種類</b> - <b>サークル活動:</b> <b>有</b>																																				
就職等の 状況※2	<b>主な就職先・業界等(平成29年度卒業生)</b> 美容業界 <b>就職指導内容</b> 就職ガイダンス、ホームルーム、就職対策授業にて就職支援を行っている <table border="1"> <tr><td>卒業生数</td><td>108</td><td>人</td></tr> <tr><td>就職希望者数</td><td>106</td><td>人</td></tr> <tr><td>就職者数</td><td>106</td><td>人</td></tr> <tr><td>就職率</td><td>100</td><td>%</td></tr> </table> <b>卒業者に占める就職者の割合</b> : 98 % <b>その他</b> ・進学者数: 1人 (平成 29 年度卒業者に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			卒業生数	108	人	就職希望者数	106	人	就職者数	106	人	就職率	100	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<b>国家資格・検定/その他・民間検定等</b> (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師国家資格</td> <td>②</td> <td>107人</td> <td>96人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定</td> <td>③</td> <td>111人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラーコーディネイト検定</td> <td>③</td> <td>97人</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>トータルメイクアップ検定検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>100人</td> <td>97人</td> </tr> </tbody> </table> <b>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) <b>自由記述欄</b> (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	美容師国家資格	②	107人	96人	サービス接遇検定	③	111人	66人	パーソナルカラーコーディネイト検定	③	97人	91人	トータルメイクアップ検定検定ベーシック	③	100人	97人
卒業生数	108	人																																							
就職希望者数	106	人																																							
就職者数	106	人																																							
就職率	100	%																																							
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																						
美容師国家資格	②	107人	96人																																						
サービス接遇検定	③	111人	66人																																						
パーソナルカラーコーディネイト検定	③	97人	91人																																						
トータルメイクアップ検定検定ベーシック	③	100人	97人																																						
中途退学 の現状	<b>中途退学者</b> 20名 <b>中退率</b> 9% 平成29年4月1日時点において、在学者223名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者203名(平成30年3月31日卒業者を含む) <b>中途退学の主な理由</b> 進路変更・精神疾患・目標喪失 <b>中退防止・中退者支援のための取組</b> 入学前オリエンテーション・スタートアッププログラムの実施・在校生スタッフ																																								
経済的支援 制度	<b>学校独自の奨学金・授業料等減免制度:</b> <b>有・無</b> 特待生制度※授業料一部免除 <b>専門実践教育訓練給付:</b> <b>給付対象・非給付対象</b> ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																								
第三者による 学校評価	<b>民間の評価機関等から第三者評価:</b> <b>有・無</b> ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																								
当該学科の ホームページ URL	http://www.sanko.ac.jp/tokyo-beauty/																																								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、BA分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、BA分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
野崎裕憲	株式会社MoM Neolive	平成29年3月31日-平成31年3月31日	③
奥田昌敏	株式会社トニーズコレクション	平成29年3月31日-平成31年3月31日	③
三谷愛	一般社団法人 エステティックグランプリ	平成29年3月31日-平成31年3月31日	①
北沢 雅一	一般社団法人 日本まつ毛エクステンション協会	平成29年4月1日-平成31年3月31日	①
早見 一進	株式会社BEAUTY LOGIC	平成30年3月31日-平成31年3月31日	③
池田利幸	株式会社東京美容研究所ブライダル事業部	平成30年3月31日-平成31年3月31日	③
中村秀行	学校法人三幸学園東京ビューティーアート専門学校		
小海勝正	学校法人三幸学園東京ビューティーアート専門学校		
木村香奈子	学校法人三幸学園東京ビューティーアート専門学校		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月・7月)

(開催日時(実績))

第1回 2018年7月20日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

正確に美容業界における動向や求められる人材要件を把握するため、生徒の就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を高め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

実習先である美容施設に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。

これらのことによって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基本方針として「お客様を美しくすることで感謝される」「サロン・組織を活性化できる人材を育成する」という本校人材育成方針のもと美容室等との連携で実践的かつ専門的な職業教育を実践していくこと。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

美容業界においては技術力と接客力が重要であるということは不変のものであり、双方を兼ね備えることで長く業界で活躍することができ、業界の発展にも繋がっていくことから、本校教育理念である「技能（知識・技術・理論）」と「心（人間教育・対人基礎力）」の調和をもとに授業計画から本校教員も参加し、「技術・理論の習得レベル」及び「マナー」・「コミュニケーション」など現場に即した内容を検討、そして定期的に授業の振り返りを行い継続的かつ改善工夫を実施している。企業等と連携することで、より早く現場の変化や課題に対しての対応及び教育への反映し、本校そして業界の求める「人材の育成」に貢献できると考える。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
着付け	着物文化の指導者としての検定取得を目指し、着付けの技術や着装の指導など、着物全般に対するアドバイスを行うための知識を習得するべく、講義・実習・演習を行う。学期評価、学年評価共に5点法とする。単位認定は下記事項に該当する者において校長（副校長）が行う。 1) 学年評価「2」以上 2) 指定時間数を満たしている場合	東洋きもの文化学院
サロンワーク	卒業後のサロンワークを想定し、集客・接客なども含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び、実際にお客様をお呼びして施術を行い、技術なども学んでいく。実務全般に対するアドバイスを行うための知識を習得するべく、講義・実習・演習を行う。学期評価、学年評価共に5点法とする。単位認定は下記事項に該当する者において校長（副校長）が行う。 1) 学年評価「2」以上 2) 指定時間数を満たしている場合	パーソナルキャリア株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

研修を教員に受講させることについては規程に定められている。

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、美容業界・教育業界を担う「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで社会に貢献できる人材」「お客様を美しくすることで感謝される。サロン・組織を活性化できる人材」を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ネイル業界研究・トレンド研修」

連携企業等：

①株式会社レッドネイルズ②株式会社ノンストレス③株式会社Vingt④ベレックス株式会社

期間：6/27(水)

対象：ネイルコース教員

内容：ネイル市場説明

研修名「化粧品ガイダンス」

連携企業等：タカラベルモント株式会社

期間：7/24(火)

対象：エステコース教員

内容：化粧品使用方法に関する講話

研修名「美容業界ガイダンス」

連携企業等：株式会社uka

期間：7/25(水)

対象：ネイル、美容科教員

内容：美容業界働き方講話

研修名「分野別研修」

連携企業等：

①株式会社不二ビューティ②株式会社ヌック③AFLOAT TAIPEI④株式会社エス・トータルプロデュース⑤ELGC株式会社

期間：8/23(木)

対象：教員

内容：美容業界に関しての講話

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「労務研修(労働時間の考え方)」

連携企業等:T-PEC

期間:8月23日(木)

対象:教員(役職者対象)

内容:①管理者として知っておくべき労働法の基礎 ②時間外労働の考え方 ③具体的な労務管理方法

研修名「メンタルヘルス研修 基礎理解のためのメンタルヘルス教育(気づき)」

連携企業等:T-PEC

期間:8月23日(木)

対象:教員(役職者対象)

内容:ストレスとメンタルヘルス疾患の相関関係を学び、職場で見られやすい疾患や初期症状への気づき、部下を諫める方法、傾聴の仕方など具体的な対処方法を学ぶ

研修名「主任1年目研修(QUADRANT)」

連携企業等:リクルートマネジメントソリューションズ

期間:第1クール6/4(月)～6/5(火) 第2クール7/3(火)～7/4(水)

対象:教員(役職者対象)

内容:部下(後輩)の仕事を管理するスキルを取得し、部下(後輩)の仕事を管理する力を向上させる

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「SNS使用方法に関して」(連携企業等:株式会社RS)

期間:10月中

対象:教員

内容:就職活動に関する生徒指導に役立つ講義

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「主任2年目研修(MBC)」

連携企業等:リクルートマネジメントソリューションズ

期間:第1クール10/22(月)～10/24(水) 第2クール12/10(月)～12/12(水)

対象:教員(役職者対象)

内容:マネジメントの原理原則の体系的に習得し、職場でのマネジメントレベルを向上させる

研修名「メンバー育成力実務ケースワーク」

連携企業等:株式会社ウィルシード

期間:第1クール10/15日(月)～10/16(火) 第2クール10/16(火)～10/17(水) 第3クール10/30(火)～10/31(水) 第4  
クール10/31(水)～11/1(木)

対象:教員(非役職者対象)

内容:次のステップ(主任)を目指すために自分の足りない要素を知る

研修名「リーダーシップ開発研修～メンバー育成力～」

連携企業等:株式会社ウィルシード

期間:第1クール10/15日(月)～10/16(火) 第2クール10/16(火)～10/17(水) 第3クール10/30(火)～10/31(水) 第4  
クール10/31(水)～11/1(木)

対象:教員(非役職者対象)

内容:部下(後輩)のOJT・担任指導者として、メンバーを育成し、成長を促すことができる育成を行う土台として、上司(先輩)として部下(後輩)から信頼関係を築く

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動について自己評価を実施し、それに基づく「学校関係者評価」を実施する。  
 学校が掲げる重点目標の達成度や取組が適切か評価し、具体的な取組の改善を図り、評価や改善を踏まえ重点目標を設定し、目標の達成を目指した取組(実行)をし、評価をするというサイクルをのの評価にあたり、委員会を設置し自己評価の結果及び改善方策について評価をする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか</li> <li>・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>

(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか</li> <li>・受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> <li>・学内で適切な体制が整備されているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や 授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1) 自己評価をもとにした運営内容の充実及び改善に関する事項
- (2) カリキュラム・シラバスの企画・運営・評価に関する事項
- (3) 各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (4) その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小泉郁美	Luminous	平成30年4月1日～平成31年3月31日	卒業生
伊藤 隆充	株式会社ITO CYANDELUCCA	平成30年4月1日～平成31年3月31日	業界企業
平井宏子	SANKO日本語学校東京	平成30年4月1日～平成31年3月31日	日本語学校
木下徳之	飛鳥未来きずな高等学校御茶ノ水キャンパス	平成30年4月1日～平成31年3月31日	高校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

公表時期: 2018年8月中

URL: <http://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/kankeisya/tokyo-beauty.pdf>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業、業界団体との連携により美容業界の動向を踏まえ、企業等の派遣講師による講義や企業等で実習を行い、美容に関する最新の知識、技術の習得を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について
(2) 各学科等の教育	●三幸学園の教育 ●学科紹介 ●資格・就職
(3) 教職員	●講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	●実習・実技等 ●就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●地域支援、子育て支援
(6) 学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7) 学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8) 学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費収支計算書 ●賃借対照表 ●財策目録
(9) 学校評価	●学校の評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

## 授業科目等の概要

(衛生専門課程 美容学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保健Ⅰ	人の身体の構造や機能を理解し、健康に保つ方法や疾患など、美容と健康の関わりについて学びます。	1年	30	1	○							
○			保健Ⅱ	皮膚付属器官の構造及び機能、毛髪などの構造・機能の知識を美容技術と関連させて学びます。	2年	60	2	○							
○			文化論	美容文化史、美容デッサン、服飾・ファッション・デザインの変遷、色彩や表現方法などについて学びます。	1年	60	2	○							
○			運営管理	サロン経営に必要な経営管理、労務管理、接客法、マーケティングなどの知識・手法を学びます。	1年	30	1	○							
○			美容技術理論Ⅰ	基礎から特殊技術までの器具の取り扱い、その目的や種類、特徴、技術上の注意点について学びます。	1年	60	2	○							
○			美容技術理論Ⅱ	エステ・メイク・ネイル・着付け・まつ毛エクステンションなど美容全般の技術と理論について学びます。	2年	90	3	○							
○			関係法規・制度	衛生行政、美容師法など、美容に係わる法律について学び、知識を深めます。	2年	30	1	○							
○			衛生管理	公衆衛生について学び、感染症と環境衛生、消毒の義務や目的など、サロンにおける衛生管理を学ぶ中で、衛生面についての理解を深めます。	2年	90	3	○							
○			香粧品化学	美容機器・香粧品を適正に取り扱うために、機械器具、香粧品の働きを理解し、正しく取り扱う上で必要な科学的知識を学びます。	2年	60	2	○							
合計					(9科目)		単位(講義12・演習5単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【履修方法】●講義及び演習科目については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。実習及び実技科目については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。各科目授業内テスト(実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施)の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。【進級・卒業要件】●授業科目の履修を終了した者には、認定のうえ単位を与える。単位の認定については、各科目における試験及び演習・実習の評価によるものとする。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(衛生専門課程 美容学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			美容実習Ⅰ-A	用具類の規格について説明。美容師国家試験第2課題を中心に第1課題、衛生までの範囲を学ぶ。シャンプーの基礎も取り入れハンドブローまでの技術を習得。	1年	450	15			○					
○			美容実習Ⅰ-B	用具類の規格について説明。美容師国家試験第2課題を中心に第1課題、衛生までの範囲を学ぶ。シャンプーの基礎も取り入れハンドブローまでの技術を習得。	1年	60	2			○					
○			美容実習Ⅱ-A	美容師国家資格第1・2課題、衛生面を中心に知識・技術を習得し、美容師国家試験合格を目指す。	2年	300	10			○					
○			美容実習Ⅱ-B	美容師国家資格第1・2課題、衛生面を中心に知識・技術を習得し、美容師国家試験合格を目指す。	2年	90	3			○					
○			ビジネスマナー	検定取得を目指し、敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など、社会人としての考え方をはじめ、ルールやマナーを学ぶ授業です。	1年	66	2	○							
○			カラー&ファッション	ファッションコーディネートで即戦力となるように、色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に着けます。パーソナルカラーコーディネートの資格取得を目指します。	1年	60	2	○							
○			未来デザインプログラム	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1年	60	2	○							
○			ヘアアレンジ	前期にホットカーラー、ピンうち、ポニーテール、編み込みなどの基礎テクニックを習得し、後期には夜会巻きや成人式などの行事ごとに活用できるアレンジテクニック習得を目指す。	1年	30	1			○					
○			着付	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	2年	30	1			○					○
○			就職対策Ⅰ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導します。	1年	30	1			○					
○			就職対策Ⅱ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導します。	2年	30	1			○					
合計			(11科目)		単位(講義6単位/演習3単位/実31単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【履修方法】●講義及び演習科目については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。実習及び実技科目については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。各科目授業内テスト(実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施)の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。【進級・卒業要件】●授業科目の履修を終了した者には、認定のうえ単位を与える。単位の認定については、各科目における試験及び演習・実習の評価によるものとする。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(衛生専門課程 美容学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		美容実践Ⅰ－Ａ	メイクアップ、パーマ・カラー、花嫁着付け、ネイルなどの美容に関わる科目全般を選択履修。応用技術・深い知識及び実践力を身につける。	1年	90	3			○						
	○		美容実践Ⅰ－Ｂ	メイクアップ、パーマ・カラー、花嫁着付け、ネイルなどの美容に関わる科目全般を選択履修。応用技術・深い知識及び実践力を身につける。	1年						○					
	○		美容実践Ⅰ－Ｃ	メイクアップ、パーマ・カラー、花嫁着付け、ネイルなどの美容に関わる科目全般を選択履修。応用技術・深い知識及び実践力を身につける。	1年						○					
	○		美容実践Ⅰ－Ｄ	メイクアップ、パーマ・カラー、花嫁着付け、ネイルなどの美容に関わる科目全般を選択履修。応用技術・深い知識及び実践力を身につける。	1年						○					
	○		美容実践Ⅰ－Ｅ	メイクアップ、パーマ・カラー、花嫁着付け、ネイルなどの美容に関わる科目全般を選択履修。応用技術・深い知識及び実践力を身につける。	1年						○					
	○		美容実践Ⅱ－Ａ	美容メイクアップ検定や、ネイル技能検定などの資格取得に向け、幅広い知識と基礎技術を習得する。	2年	90	3			○						
	○		美容実践Ⅱ－Ｂ	美容メイクアップ検定や、ネイル技能検定などの資格取得に向け、幅広い知識と基礎技術を習得する。	2年						○					
	○		美容実践Ⅱ－Ｃ	美容メイクアップ検定や、ネイル技能検定などの資格取得に向け、幅広い知識と基礎技術を習得する。	2年						○					
	○		美容実践Ⅱ－Ｄ	美容メイクアップ検定や、ネイル技能検定などの資格取得に向け、幅広い知識と基礎技術を習得する。	2年						○					
	○		美容実践Ⅱ－Ｅ	美容メイクアップ検定や、ネイル技能検定などの資格取得に向け、幅広い知識と基礎技術を習得する。	2年						○					
	○		サロンワーク－Ａ	卒業後のサロンワークを想定し集客接客などを含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様をお呼びして施術を行っている。	2年					○						
	○		サロンワーク－Ｂ	卒業後のサロンワークを想定し集客接客などを含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様をお呼びして施術を行っている。	2年					○						

○	サロンワークーC	卒業後のサロンワークを想定し集客接客などを含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様をお呼びして施術を行っている。	2年	60	4			○						
○	サロンワークーD	卒業後のサロンワークを想定し集客接客などを含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様をお呼びして施術を行っている。	2年					○						
○	サロンワークーE	卒業後のサロンワークを想定し集客接客などを含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際にお客様をお呼びして施術を行っている。	2年					○						
合計			(15科目)	単位(実技10単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>【履修方法】●講義及び演習科目については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。実習及び実技科目については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。各科目授業内テスト（実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施）の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。【進級・卒業要件】●授業科目の履修を終了した者には、認定のうえ単位を与える。単位の認定については、各科目における試験及び演習・実習の評価によるものとする。</p>	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。